

原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追及 特集号
第百六十五号

原告団レポート

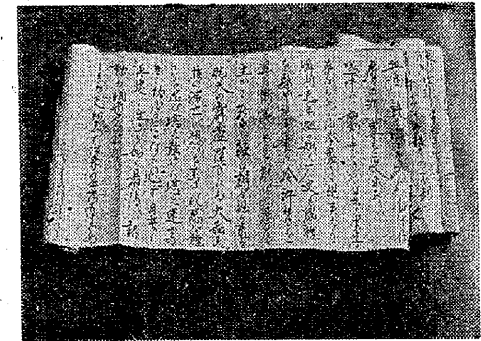
CO患者—— 鶴田 幹男 さん

閑静な住居

昭和五十二年の五月に作成された大牟田労災病院のカルテが、その他覚悟の所見の一つに「抑うつ状態」としたためているように、CO患者——鶴田幹男さんの症状はきわだって、奇妙な抑うつ状態を呈している。

同じCO患者だとしても、彼はあの三池大爆発とちがいで、あれから四年後の昭和四十二年九月二十八日午前五時四十五分ごろ、同じ三川鉱で再び起きた災害——坑内火災(七人の労働者が死に、百四十人がCO中毒)に被災、思わげない苦しみをなめながら生きねばならぬ体になってしまった。

鶴田さんは大正五年生まれで六十四歳。同じ大正の十年生まれで五十九歳の操子さんと、荒尾市川登幸井川口二二三五—三七の自宅に二人住まい。



上の写真は、炭労の政転闘争で中央の行動に参加するため上京中の車中で撮ったもの。向つて左から2人目が鶴田さん。このおまかげは、今どこにもない。今のおまかげを伝える写真は撮れなかつた。

念に、苦が、
年にも、今、
週三紙を、は、
選文を、は、
生がな、は、
のらう、は、
か田を、は、
ら、は、
ヤ、は、
リ、は、
シ、は、
は、は、
を、は、
め、は、
上、は、

「なんで、こまったの？」と聞くのに、彼はしきりに頭をふりながら繰り返した。「組合からまできてもらったり、大変なことになったな。こまったな。」「朝から晩までこの通りですか。この人の相手をしながら生き

長女誕生も
操子さんが不思議な縁で結ばれて、関東軍の牡丹江司令部に軍属として動いていた鶴田さんのもとへ嫁いだのは、すでにわが国があの太平洋戦争に突入していた昭和十八年の春四月のことだった。

「ミサコヨ、タイヘンクワウカケマシタ。オヤコトモゲンキデイルコトヲシンジマス。……キツトイシニカシツイテモノコノダイシレンヲトツ。シテカヘリマス。ダガツメタイフユガキマシタ。アヘルヒハイツカシラ」

ちなみに、鶴田さんは妻操子さんの介添をうけ、労災補償を打ち切られたことが納得できず、今労働者災害補償保険審査委員会に対して不服申し立てを行なっている。日々反動化が強まっている政治状況のなかで、彼の不服申し立てが正当なものとして、はたして認められるかどうか。

「オ、死にそのうた」が、心を千々によじらせて待つ家族への第一声だったという。続けて彼は言った、「今俺が死んだら、甲

その年の十一月、白鳩診療所(荒尾市内)へ入院する身となった。以来リンゲルを注射したり、病

うになった。家を過ぎさせ、気分た労災補償を打ち切られ、いや応転換を考へて見れば、ということになり、彼は診療所を退院して川登の自宅で過ごすことになる。

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

不幸な生還

三川鉱の坑底で坑内火災が発生したとき、鶴田さんは採炭工として働いて被災した。

当時彼はまだ現住所でなく、同じ荒尾市の緑ヶ丘社宅桂町に住んでいたが、からくも命拾いした彼が宮浦鉱の坑口から脱出、社宅のわが家に帰りついたのはその日の夜だった。

「オ、死にそのうた」が、心を千々によじらせて待つ家族への第一声だったという。続けて彼は言った、「今俺が死んだら、甲

その年の十一月、白鳩診療所(荒尾市内)へ入院する身となった。以来リンゲルを注射したり、病

うになった。家を過ぎさせ、気分た労災補償を打ち切られ、いや応転換を考へて見れば、ということになり、彼は診療所を退院して川登の自宅で過ごすことになる。

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

突然の高熱

かりに二酸化炭素におかされていられるにも、半分はじょうだん口をたたきながら帰ってくることでできた彼の、怪しとはかり思っていたその体だったが、やがて襲ってくるようになった頭痛や耳鳴り、脚のひどいシビレなどの症状にいつに勝つことができず、

その年の十一月、白鳩診療所(荒尾市内)へ入院する身となった。以来リンゲルを注射したり、病

うになった。家を過ぎさせ、気分た労災補償を打ち切られ、いや応転換を考へて見れば、ということになり、彼は診療所を退院して川登の自宅で過ごすことになる。

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

逃れられぬ抑うつ症状

とかく家じゆ閉めきつてはうずくまる

妻の介護に仏も救いを

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

この中毒症

自宅療養の続くはずがなく、そのうち彼は大牟田労災病院に再入院する。そして、昨年の六月有無をいわず、それまで愛給してい

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

仏の加護を

「摩訶般若波羅密多……」

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

心やさしく

炭鉱にはいると、彼は妻をつれて緑ヶ丘社宅の桂町へ移った。

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

さらけ出さぬ抑うつ症状

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた

「俺は家にいるとなると、とかく家をなからすうかり閉め切つて過ごすようになった。余儀なくも、操子さんが夫の彼を家に残して外出しなければならなかったときなど、家を出るとき彼のた